

第44回 『あいおの会』

- 失語症友の会 -

1、「失語症友の会」とは

失語症とは、脳卒中や事故などの後遺症によって、言葉を操る能力に障害が残った状態をいい、聞く・話す・読む・書くことすべてに影響を及ぼします。このような失語症の方に対して、言語聴覚士が中心となり、個別の訓練・支援をおこなっております。

失語症の多くの人は、日常の何気ない会話が不自由になり、仕事や趣味活動など、社会活動への参加が難しくなります。そこで、熱海・伊東地区では、失語症の方々のコミュニケーションの機会を作り、交流を深めるという目的で、平成18年7月より「失語症友の会」を開催しております。会には国際医療福祉大学熱海病院と熱海所記念病院の言語聴覚士や患者様のご家族も参加しております。

2、第44回「あいおの会」

平成27年2月1日(日)国際医療福祉大学熱海病院にて、失語症患者様5名とご家族様4名、言語聴覚士8名が参加し17名の方々が集まりました。天候にも恵まれ始まりました。

今回は、「鬼の顔で福笑い」「いろいろかるた」の2つを行いました。福笑いは、もうすぐ節分というのもあり、鬼の顔を用いました。メガネのフレームに、スタッフが描いた目隠しは、どれも魅力的でした。出来上がった作品もとても素敵でした。かるたは、読み手と取り手に分かれての真剣勝負でした。とても白熱して楽しいひとときでした。

お茶菓子は熱海桜の和菓子とホットコーヒー。梅まつりにちなんだ物をご用意しました！
最後には皆さん元気よく「豆まき」「雪」を歌いました♪

次回は平成27年6月7日(日)13時から、国際医療福祉大学熱海病院 地下会議室で行います。



福笑いは変わったメガネで目隠しです♪



豆まきで寒さを吹き飛ばしましょう！